

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 優秀賞

「私の友達」

相模原市立小山小学校 四年 小林 依央理

こばやし

いおり

私の学校には、障害のある人がいるスバル級とアトム級があります。

私のクラスには、スバル級とアトム級の友達があります。

私は、スバル級やアトム級の子と遊ぶのが大好きです。

私は、毎朝スバル級の男の子に「おはよう」と声をかけています。そうするとスバル級の男の子も「おはよう」と返してくれて私はうれいのです。

ある日のはば飛びの体育の時、一緒のチームになりました。はば飛びのきよりを競う対決で、私はスバル級の男の子なら一番近いきよりの一点はとれると思い、スバル級の男の子に「一点とれたらチームに一点もらえる、だからがんばってね」と言いました。そうしたらスバル級の男の子は、がんばってジャンプして一点とれました。次に予定係にスバル級の女の子と一緒に、その子は、字を書くのが苦手そうだったので、予定を消す係をしてもらいました。その子は一生けん命上手に消してくれました。

最後にクラスで写真さつえいをした時の話です。スバル級の男の子とアトム級の男の子は教室にいたので、スバル級の女の子をスバル級によびに行ったら、スバル級の女の子はともうれしそうにして教室に来てくれて、みんなで楽しく写真をさつえいすることができました。

私が、スバル級やアトム級の友達のような人たちと、同じ教室でじゅ業を受けていて思ったことは、障害があっても、がんばれば、みんなと一緒にすることができる。

また、障害のある人も、ない人も、同じように学校のじゅ業が、受けられることが、とても良いことであるということなのです。

これからもスバル級やアトム級の人たちと、一緒に勉強していきたいです。